

2020 年 3 月 24 日

通貨ニュース

タイ:3 月臨時金融政策委員会～政策金利を過去最低の 0.75%へ引き下げ

タイ中央銀行(BOT)は3月20日に臨時の金融政策委員会(MPC)を開催し、政策金利を25bp引き下げ、0.75%とすることを決定した(図表1)。BOTは先月に25bp政策金利を引き下げており、前回会合に続き、政策金利は過去最低水準を更新した。なお、金融政策委員会では7人の委員が全会一致で利下げに賛成した。

声明文では、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が当初想定していた以上に深刻なものとなり、各国市場に先行き懸念をもたらしている現状を踏まえ、経済への悪影響を払拭すべく臨時の利下げを決定したと述べた。BOTは今回の利下げを通じて、事業法人や家計の流動性懸念や債務負担の軽減させることを見据えるほか、適切な市場介入を通じて金融市場の安定性を確保していく姿勢を表明した。なお、タイ国家経済社会開発委員会は新型コロナウイルス感染拡大の影響を織り込み、既に今年の経済成長の予測を前年比+2.7~3.7%から同+1.5~2.5%に引き下げている。

THBは、先週末時点で対ドルで約7.8%の下げ幅を記録し、昨年を通じて続いていたTHB高から下落に転じ、一昨年の安値にまで接近している(図表2)。新興国各国で新型コロナウイルス感染拡大による景気減速が指摘される中で、特にタイでの影響が大きかった理由は、唯一堅調に推移していた観光業に大きな打撃を与えたことであろう。観光業はタイのGDPの約2割を占めており、国の試算によれば外国人旅行者が年間500万人程度減少し、観光収入の損失額は150億ドル程度に達するとされている。未だビジネスや観光で世界中を自由に移動できる目処は立っておらず、事態は長期化の様相を呈している。

また、タイは域内最大の経常黒字国であるが、その構造を見てみると近年は貿易収支に代わって、観光や物流などの取引額を示すサービス収支の存在感が大きくなっていることがわかる(図表3)。一方、貿易収支については、黒字を維持しているものの、昨年は米中貿易摩擦が長期化し、自国通貨が国際情勢からファンダメンタルズ以上に買われ、THB高となったことで輸出が伸び悩み、全ての月で前年の結果を下回ることとなった(図表4)。今年については、新型コロナウイルスの影響で世界的なリスクオフの動きが進んでおり、大きな改善を見込むのは難しく、出鼻をくじかれた格好だ。

上述の経常収支の悪化への懸念や来月以降も新型コロナウイルスの影響を受けた経済指標が公表されることで、ファンメンタルズの悪化を嫌気する声も出てくる可能性があり、THBは短期的には安値を更新する展開も考えられる。しかしながら、今のところ時期は不明であるものの、新型コロナウイルスの感染が終息に向かうにつれ、現在のドル高が是正されるなか、徐々に値を戻す展開を予想する。なお、タイは今月25日にも通常の金融政策会合を予定しており、ブルーミングの予想ではさらに25bpの利下げを見込んでいる。

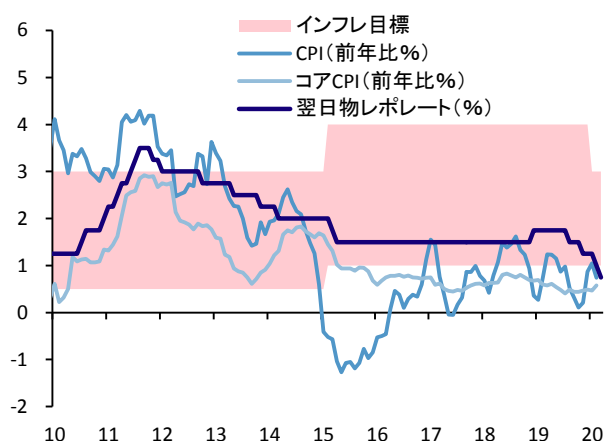
市場営業部

堀 堯大

03-3242-7065

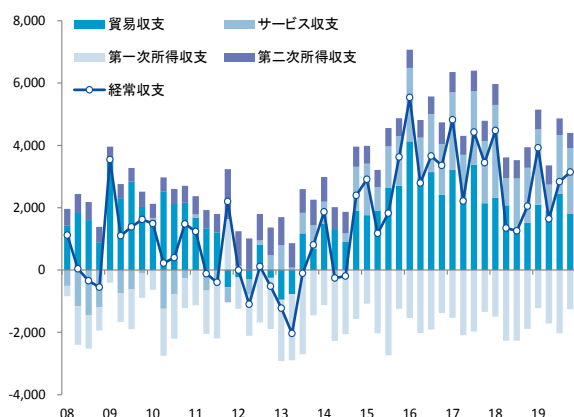
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

図表 1: タイの政策金利とインフレ率



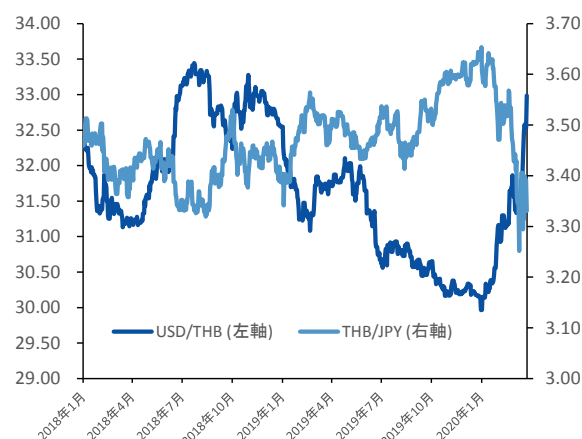
出所: タイ中央銀行、タイ商務省、CEIC、みずほ銀行

図表 3: 経常収支の内訳(億バート)



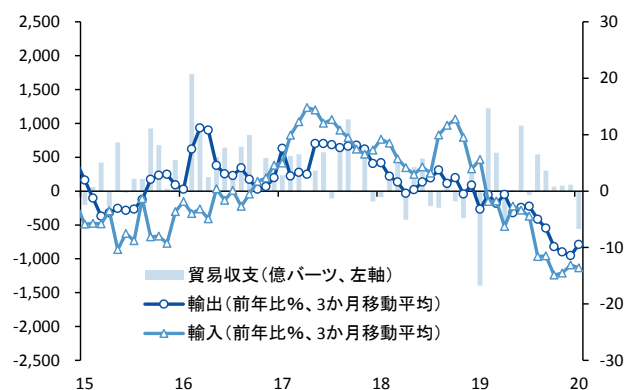
出所: タイ中央銀行、タイ商務省、CEIC、みずほ銀行

図表 2: THB の為替動向 (2018 年以降)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: 貿易収支の推移



出所: タイ中央銀行、CEIC、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。